

令和7年6月議会主な議案

令和7年6月4日（水）-13日（金）

【令和7年度 6月補正予算案の概要】

1. 補正予算の規模

一般会計（第1号）補正	62, 604千円
下水道事業（第1号）補正	2, 874千円

2. 主な内容（一般会計）

物価高騰対策給付金給付事業（調整給付金不足額分）	55, 266千円
神川町中学校管理費一般会計 （神川中学校体育館空調設備設置工事設計業務委託）	4, 785千円

●陳情第7号 神川町非核平和都市宣言の決議求める陳情

【要旨】

神川町議会に「非核平和都市宣言」を発議していただき、地方自治体が自らを非核地帯と宣言し、核兵器の廃絶を内外に伝える活動を要望する。

陳情者 原水爆禁止 本庄市協議会 矢島孝一

付託委員会 総務経済常任委員会 審議結果採択

（これにより平和都市宣言に関する決議に至る）

川浦は委員長に質問しました。

委員会採択は陳情主旨に沿わず内容の一部が採択されただけである。これでは陳情は採択するが内容は変えるという事だ。なぜ陳情内容を変更したのか。

委員長からは幅広い意味で平和をとらえたとの説明。

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】

陳情の扱いとして陳情者の主旨に沿わない内容で委員会採択される事態になり、議会としての審議のあり方が問われる。

陳情主旨に反対なら不採択にすればいい。議会審議の重さを考えていただきたい。今回これを通せば今後の請願や陳情がたとえ採択されてもその内容が変えられることも危惧されるため反対

●決議第1号 平和都市宣言に関する決議

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】

1945年8月アメリカが広島と長崎に落とした原子爆弾は一瞬にしてふたつの市を壊滅させその年の暮れまでに合わせて21万人を超える人々が原爆によって亡くなった。かろうじて生き残った被爆者は放射線による後障害などに苦しみながらも核兵器の非人道性とその廃絶を世界に訴えてきた。これらの理由で「非核」を訴えることが重要であり、陳情者の主旨を尊重した決議にすべきと考え反対

かみかわ民報

2025年7月発行
No.40

日本共産党連絡先
0495（77）2248

川浦雅子
生活相談受付可



ひとこと

水分、塩分
しっかり取って
熱中症対策
しましょう♪

不登校について

川浦 神川町の学校はこどもも教員も通いたくなる学校ですか。こどもの権利を尊重し、教員も教育者に必要な自由が保障された学校ですか。町で学校教育の現況説明の際には神川町の小中学校の成績や学力の順位が多々出てきますし、町で進める小学校統廃合路線もこどもには大きなストレスになる要因と感じます。そこで、町は不登校をどう捉えているか。次の視点で伺います。①公教育のあるべき姿はなんですか。②教育機会確保法の中の不登校支援はこの学校に合わなければ自分にある学校に行ってくださいという姿勢で「学習活動」への支援が中心です。これは不登校の支援になっていると考えますか。③子どもの心と命への関心を持っていますか。不登校のこどもの多くは様々な理由で心が折れた状態にあります。目に見えない心の傷、ストレスの蓄積と捉えていますか。ストレスは人によって感じ方が違います。大人とこどもでも違います。大人目線で不登校を見ていませんか。④親がピリピリしていると子供には伝わってきます。当事者の保護者が辛い状況、苦しい状況を話せる場、専門家や先輩経験者から学べる場を設ける等保護者同士が安心できるネットワークの構築が必要です。自分自身や子供を追い詰めたりしないよう、心のケアができる場が必要で、⑤多様な子供の学びあいを保障する教育、個人を尊重する教育をするためには、現在の社会全体の働き方やシステムが子供を育てる環境にあっているのではありませんか。文部科学省から出されたものでもおかしいと思えば町の学校で子供に合わせることができるとは思いますが、学校を変えてゆく考えはありますか。

教育長 不登校の問題は子供たちの学び、心や命、将来に深く関わる重要な課題であると認識しています。公教育は全ての子供に学びの機会と安心できる居場所を提供するものです。教育機会確保法の理念である多様な学びの保障に沿って、子供の状況に応じたきめ細かな支援を行っています。心と命の関心は不登校を問題行動と捉えるのではなく、子供からの大切なサインと受け止めています。保護者の支援は関係機関とも連携し継続的かつ切れ目ない支援を行っています。

神川町では競争に偏らない教育環境づくりを進めています。例えば今年丹荘小学校が始めた一人一人の子供をよく理解しよう。これがキーワードです。3年前からは小中学校の先生を一箇所に集め、考え方をそろえる取り組みを始めています。子供たち一人一人をどう生かし、どう見るか、これが大事だと思います。日本の教育が学力中心という話もありましたが、私も変える部分はあると思っています。

学校給食の手作り弁当とおにぎりの日について

川浦 現在町内の学校給食では年間でおにぎりの日が2回手作り弁当の日が3回あります。子供たちは楽しみにしているというお話も担当職員から伺いました。一方で全員が楽しみなのはわかりませんが、保護者の中にはお弁当作りそのための食材買い出し等時間的・経済的にきびしい方もいます。昨今の物価高騰や保護者の就労状況の変化、また高温多湿時期の長期化等さまざまな要因で中止にすべきと考えます。安全で安心の栄養価の高い学校給食提供を手作り弁当やおにぎりの日で減らさないでいただきたいと思っています。お考えを伺います。

教育長 手作り弁当の日は親子のふれあいを深め、食に関する感謝の心を持つ目的があり、おにぎりの日は防災教育の一環として子供が災害時におにぎりが作れるよう設けています。ただ、子供たちが作れるのが一番いいのですが、親御さんが作ったり、子供が作ったりです。いろいろな考えがあり、保護者の中には趣旨説明が丁寧であれば一生懸命取り組みたいという意見もあります。一方で暑いし、食中毒にも気をつけた方がいいという考え方もあります。学校給食運営委員会に諮って検討します。

感染症

予防接種について

川浦 高齢者等新型コロナウイルス感染症予防接種の自己負担額は昨年度三千円でした。令和七年度は国の助成が終了することもあり、自己負担額が増えることが予想されます。高齢者等の重症化を防ぐ手段としての予防接種であり、自己負担額軽減の取り組みが必要と考えますが今年度の町の対応を伺います。

町長 令和六年度は一件あたり接種費用、全体額一万五千四百六十六円のうち、町負担一万二千四百六十六円自己負担三千円、町負担に国の補助金八千三百円がありました。本年度は補助金がないため、接種費用等を含め現在郡市内の関係機関が医師会と協議をしています。新型コロナウイルス感染症は五類になり、ワクチン接種も任意ですが、重症化予防になる化学的治療も出ています。高齢者ができるだけ負担にならないように話しています。

